

多職種で令和 6 年度事業報告書 <白楽荘・医務室>

テーマ：ICT 導入による職員育成と働きやすい職場作りをめざした効果的な利用者支援

サブテーマ：科学的介護（LIFE）活用により、自立支援・重度化防止を重視した質の高いサービスの推進

1. 利用者の個別ケアを重視した安全で質の高い看護の提供

- ①多職種で情報を共有し、異常の早期発見・対応に努め、個人の状態に応じたケアの周知・統一を図り、安心・安全な医療・看護の提供に繋げることができた。
- ②口頭や文書では伝わりにくい褥瘡や皮膚トラブル等、ICT を活用し写真で周知・共有することで、処置の統一・業務の効率化を図ることができた。また、本年度は事例研究として、皮膚脆弱者の皮膚剥離処置に対する抗菌性皮膚保護剤の導入に初めて取り組み、処置の頻度や処置に費やす業務時間の削減、利用者の痛み・不安の軽減に繋げることができた（全 11 症例）。

2. 個別機能訓練により、生活機能の維持・向上を目指す

- ①他職種と積極的に意見交換を行い、訓練の内容やポジショニングの見直しをすることで重度化防止を図ることができた。
- ②ICT の活用、ケアカルテの導入により、利用者の基本情報の共有ができ、ケアの統一を図ることができた。

3. 利用者・家族の思いを尊重した看取りケア

- ①面会制限がある中で、家族・多職種で連携・協働しその人らしい最期を迎えることができるよう努めたが、時間外の面会や、最期を看取りたいという希望に添えないことがあった。
- ②定期的に状況や日々の変化など伝え、意向を確認、家族の思いを尊重した看取りケアに努めた。

4. 働きやすく、魅力ある職場環境

- ①業務多忙時、困り事などお互い声掛け、助け合うことで良好な人間関係を築くよう努め、離職ゼロを達成できた。また、インカムやケアカルテの習得に努め早い段階で活用することができた。
- ②業務に支障がないよう、情報の伝達・共有の手段を活用することができた。